

五郎兵衛新田村は市川五郎兵衛翁の開削した用水路で出来た村です。明治以後合併を重ね昭和30年に南御牧村、中津村の3村合併で浅科村となりました。

ここには徳川家康の朱印状や用水路地図、古文書等が保存、陳列されています。

村の名から五郎兵衛はなくなりましたが五郎兵衛用水土地改良区は今もその名を大切に引き継いでいます。

現在五郎兵衛用水路跡を記念研究のため発掘調査をしています。

五郎兵衛記念館

浅科村隣保館

長野県土地改良偉人伝

市川五郎兵衛物語



市川五郎兵衛真親翁
元禄2年(1591)6月9日
上野国甘楽郡羽根村、生
(今の群馬県甘楽郡南牧村)
寛文5年(1665)9月9日没 94才

参考文献
五郎兵衛と用水 伊藤一明 著
信州農村開発史研究所 発行
五郎兵衛用水 新田開発の功労者 斎藤洋一 著
五郎兵衛用水路の調査 浅科村茶話委員会
五郎兵衛記念館 保管資料
浅科村副読本4年 社会科
朝日百科 日本の歴史 73
開発と治水より 浅科村小學生版画

指導 (略敬称)
五郎兵衛用水土地改良区 伊藤一明 副理事長
(北西支那川西工務局の理事) 野山田益美 事務局長
(財)信州農村開発史研究所 斎藤洋一 所長
長野県佐久地方事務所 長野県農政部土地改良課

まんが 水谷たけ子



文禄2年(1593)

徳川家康

では父の市川五郎兵衛も、そなたも余が仕官せよと声をかけたのにことわると言うのだな

なぜだ？そなたの曾祖父が武田信玄に佐久の領地をもらったから義理立てしているのか

私は武士になる気がないからです

戦国の時代も終わりました。これからは鉱山や田畑を開く事業をやりたいのです。

手離すには惜しい男だ。では好きな事が出来るようにしんせよう。

市川市左衛門後の五郎兵衛23才

変り者め！大御所さまからの朱印状だ。ありがたく受けとれ

大久保十兵衛長安

おっ、ありがたい

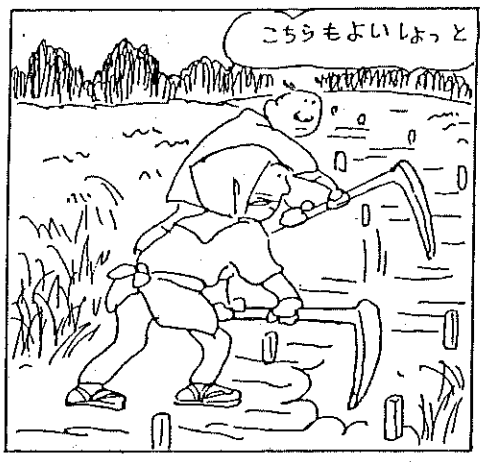
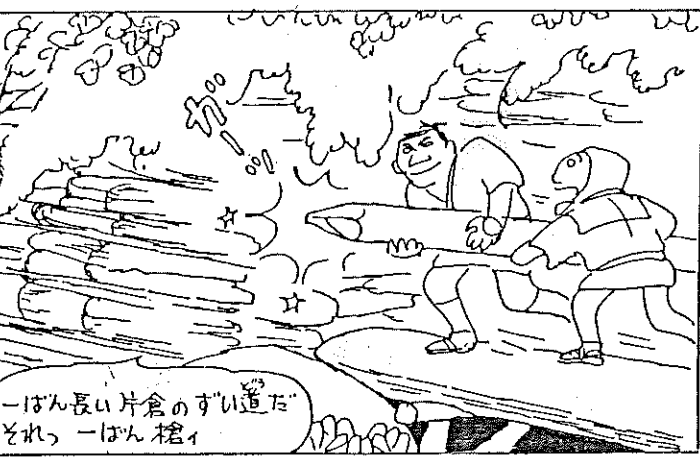
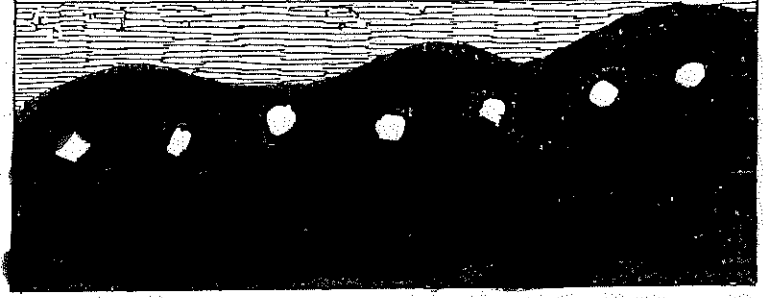
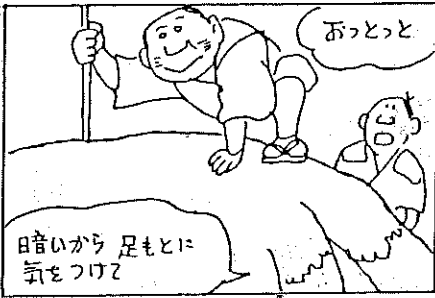
一家原の領内ではここに鉱山の発掘をしても開拓開墾を行っても一譜代の家来とどこにも居住させてもらえない。召し返す時に二居主人に届けるように(御上の支配権を認める)

一家原の政権による支配は百姓の屋敷まわり以外はどこでも採掘取りまわしを許さる

当時は五郎兵衛新田あたりは矢島原と呼ばれていた

幼い頃、谷の間から眺めていた矢島原だ。新しい技術とこの朱印状で開墾して見せるぞ



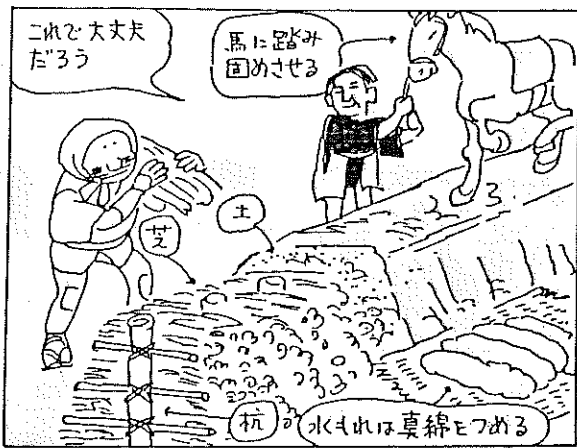




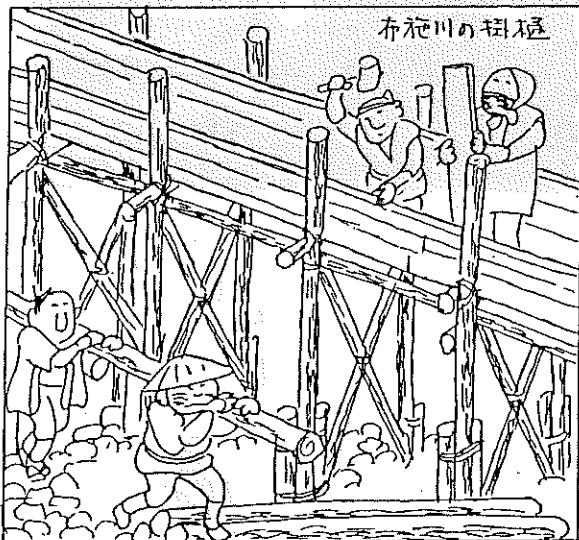
俗世の土塵は水を入れるともろくす水やすいな



とうだこの串だ
料理の田楽がどうかしましたか



これを大丈夫だらう
馬に足踏み固めさせる
土
杭
水はれは真綿をワめる



布施川の掛橋



掘りぬき(斬り道)は危けんだし首も痛くなる



ピーン
ドン
あれ伊勢神宮のおはやしが外でしているよ出てみよう



なんだなにもないじゃないか



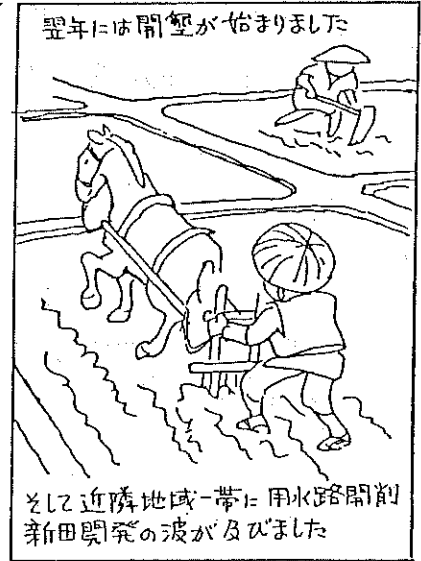
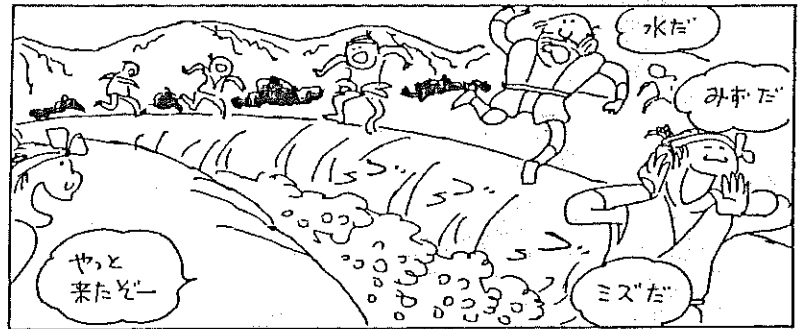
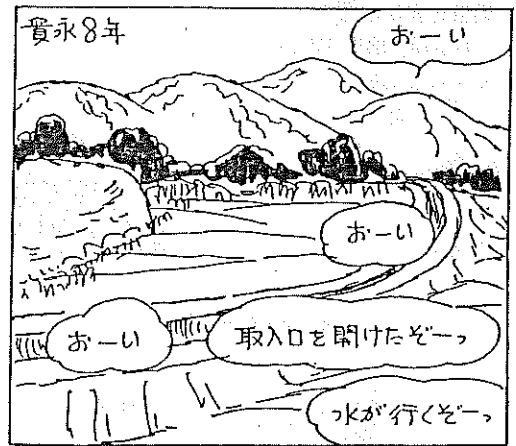
岩くずれだ
みんな無事だったか神のお加護だ



あーこれで4年目になる
野良仕事はおっほりだし、賃金は出るのかな五郎兵衛さん 資金の調達出来ないのでばー



あ、五郎兵衛さんが...
馬の荷物は...ありや、賃金の工面が...ついたらいい
よしあと一息は頑張りよ



開田に人々は集まり住みついで村が出来上りました。人々は五郎兵衛新田村と呼び、用水路を五郎兵衛用水と名付けました

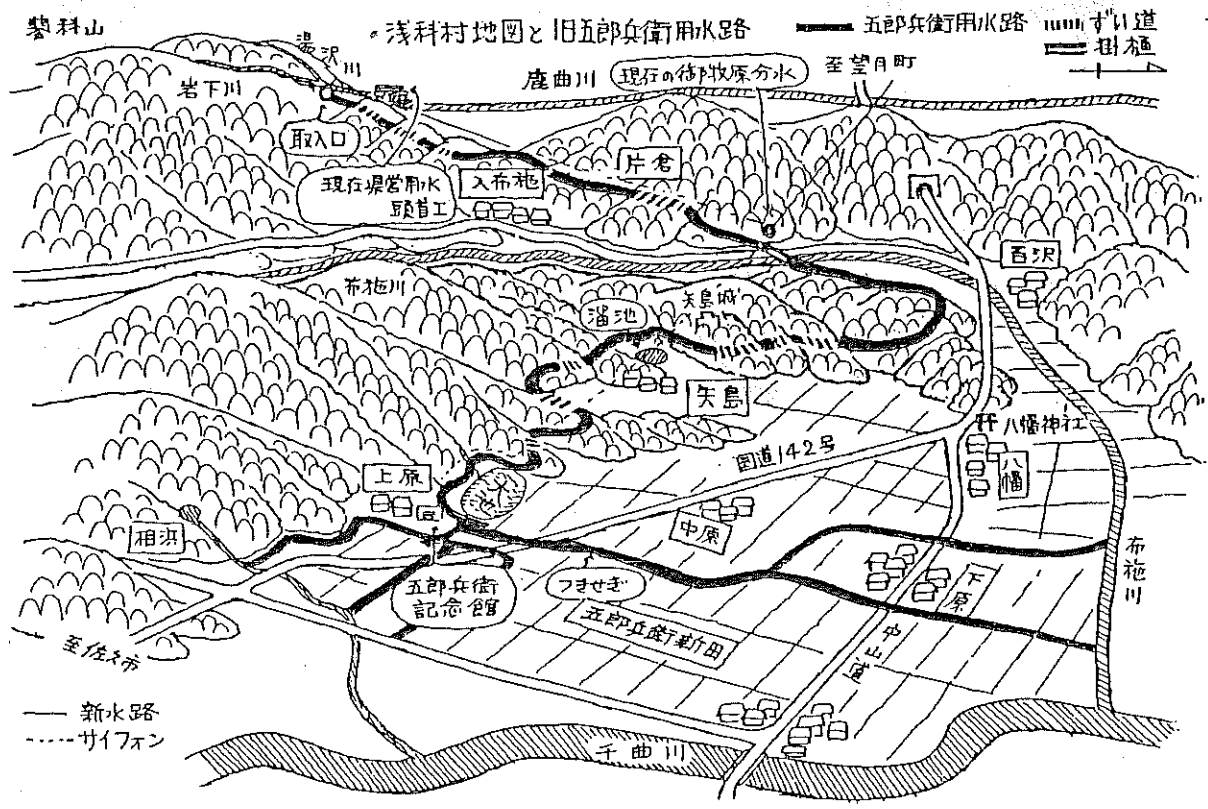
寛永10年 最初の模地

五郎兵衛翁は仏門に帰依してから94年の長寿を全うしました

齊世
無二色心名自性
壽極長臨終家風
華田蒙蓮花甲
今日流茶仙露中
臥露白心

用水路はその後維持管理に努力がなされて来ました

崩落・浸蝕で毎年修復の繰り返しいは苦勞するなあ



五郎兵衛用水路は昭和30年代になつて、農業用水改良事業で姿を変えました(延長8キロ) 昭和43年 浅科頭首工完成

ずい道跡

今の維持管理の重労働はなくなりまし

御牧原分水工

用水は農業用水としてだけでなく、近隣地域の飲料水や防火用にも利用されています

昭和58年 渠営浅科地区ほ場整備事業完了